

2021年3月期 第2四半期 決算説明資料

 ユシロ化学工業株式会社 TYO 5013

2020年11月



A dynamic splash of water in shades of green, with numerous droplets and ripples, set against a light green background.

2021年3月期第2四半期 決算業績概要

Results

新型コロナウイルス感染症に対する当社グループの対応

- 各国の規制や得意先の生産停止による需要減を、操業停止・減産で対応。段階的に稼働率を上げている。
- テレワーク、時差出勤、作業時間の短縮など、各国の状況に沿った感染症対策を導入。

注) 日本及びインド以外のグループ会社は12月決算のため、記載内容は6月までの情報。

セグメント	自動車生産の動向	当社グループの対応
日本	<ul style="list-style-type: none"> ● 各メーカーは3月下旬より生産停止及び減産を実施し、5月下旬から生産を再開。国内販売及び海外輸出の回復により生産台数は徐々に増加し、9月は前年実績を上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 営業活動は3月下旬以降自粛。6月以降は自粛を緩和。生産活動は、4月、5月に減産対応を実施。
中国	<ul style="list-style-type: none"> ● 各メーカーは1月末に一斉に生産を停止し、2月中旬より順次生産を再開。日系メーカーの生産体制は4月に通常状態に戻り、5月以降は前年水準を上回る生産台数を維持。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2月の各メーカーの生産再開を受け、営業活動を再開するも、多くの企業が訪問を禁止。4月中旬より訪問を解禁する企業が増え、本格的に営業活動を再開。
南北アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> ● 米系メーカーは3月中旬、日系メーカーは3月下旬より生産を停止。アメリカ、メキシコは4月、5月の生産台数が急激に落ち込んだが、6月には前年水準の7～8割まで回復。ブラジルは稼働率の回復が遅れ、6月の生産台数は前年の4割程度の水準に留まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 3月に在宅勤務、シフト制を導入し、一部生産調整を実施。4月は、3月の対応に加えて時短勤務や休業日を導入。アメリカは5月中旬より通常営業を再開。メキシコは完全2班制での勤務、ブラジルは時短勤務で受注対応。
東南アジア / インド	<ul style="list-style-type: none"> ● 日系メーカーは3月下旬より生産停止または減産を実施。5月下旬より順次生産を再開している。マレーシアは稼働率の回復が早く、6月には生産台数が前年水準まで回復。タイは6月時点で前年の4割程度、インドネシアは回復が遅く6月時点で前年の2割以下となっている。インドは日系メーカーの稼働率が9月に前年水準まで回復。 	<ul style="list-style-type: none"> ● マレーシア及びインドは3月のロックダウンにより企業活動を停止。マレーシアは4月、インドは5月より販売・生産活動を再開。タイ及びインドネシアは在宅勤務やシフト制、休業日などを導入し、感染症対策を実施した上で企業活動を継続。

※自動車生産の動向に関する参考資料：『自動車産業ポータルMARKLINES 各国自動車生産台数、各種市場レポート』

2021年3月期第2四半期 連結業績概要

- 連結売上高は、新型コロナウイルス感染症による生産活動の大幅な低下により減収。
- 営業利益、経常利益及び四半期純利益は、減収の影響で大きく減益。

(百万円)

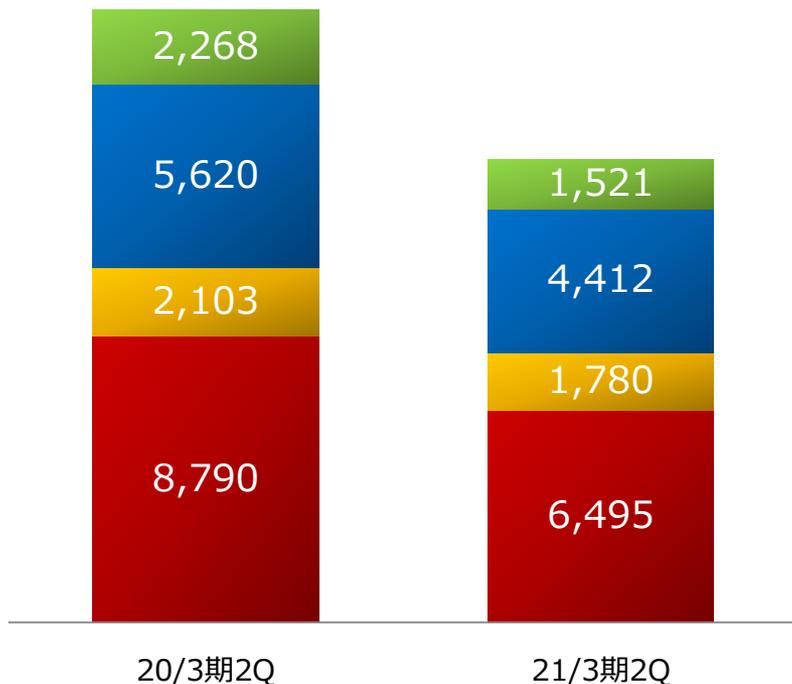
	20/3期2Q	21/3期2Q	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	18,783	14,209	△4,573	△24.3%
営業利益	1,195	△72	△1,268	—
経常利益	1,496	80	△1,415	△94.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,092	29	△1,063	△97.3%

2021年3月期第2四半期 地域別売上高

- 国内：新型コロナウイルス感染症の影響で、得意先の自動車メーカー等での生産停止・減産により減収。
- 海外：日本同様、新型コロナウイルス感染症の影響による得意先の生産停止・減産により、国毎に差があるものの減収。

セグメント別売上高（百万円）

■ 日本 ■ 中国 ■ 南北アメリカ ■ 東南アジア/インド

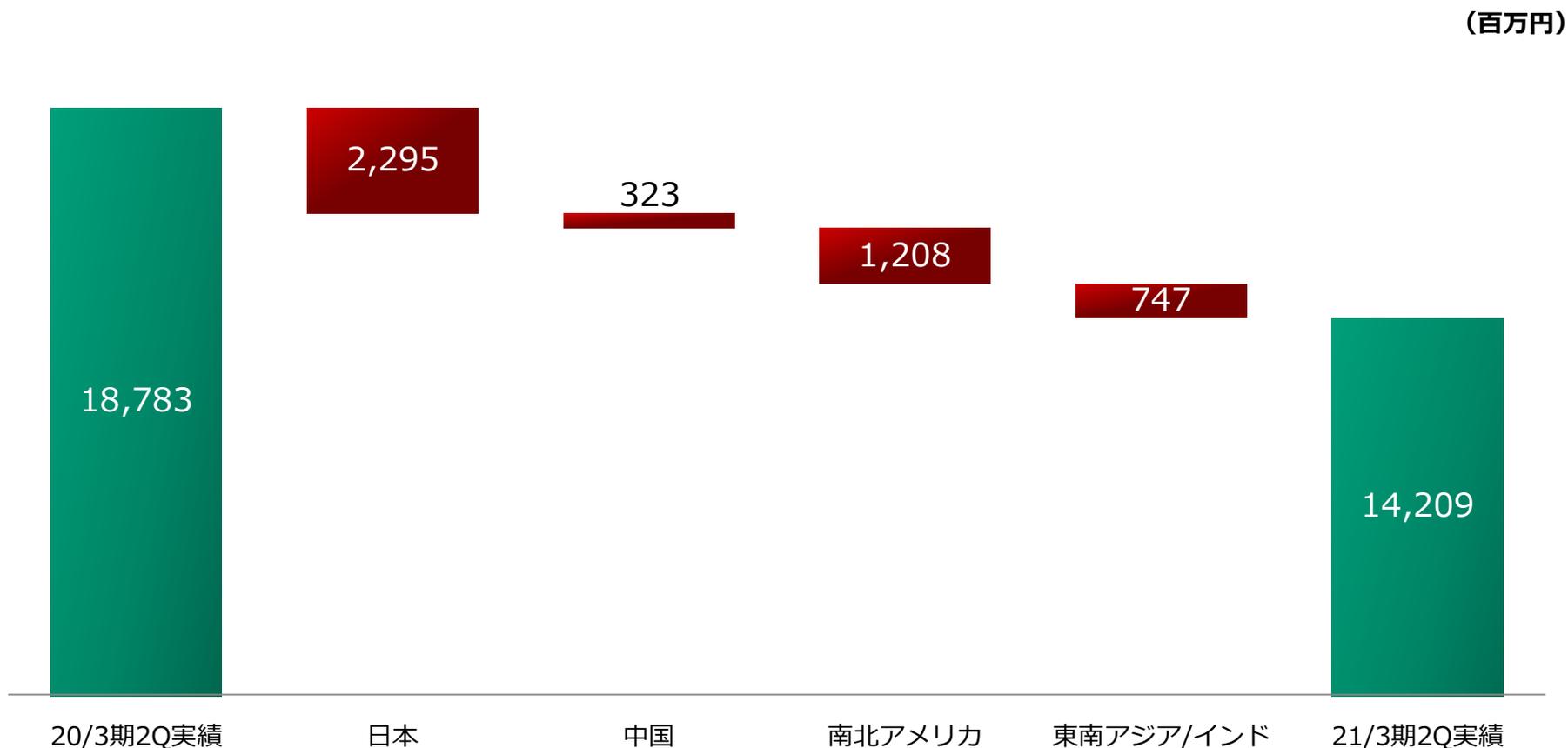


拠点別売上高（百万円）

拠点	20/3期2Q	21/3期2Q	増減率	
日本	9,701	7,186	△25.9%	
アメリカ	Yushiro America	1,877	1,319	△29.8%
	QualiChem	2,814	2,542	△9.7%
メキシコ	559	363	△34.9%	
ブラジル	517	273	△47.2%	
中国	2,508	2,065	△17.7%	
タイ	1,006	689	△31.5%	
マレーシア	456	322	△29.2%	
インド	382	200	△47.6%	
インドネシア	563	395	△29.9%	

2021年3月期第2四半期 売上高のセグメント別増減

- 各セグメントとも新型コロナウイルス感染症の影響で減収。
- 中国セグメントは比較的回復が早く、他のセグメントよりも減収幅が小さかった。

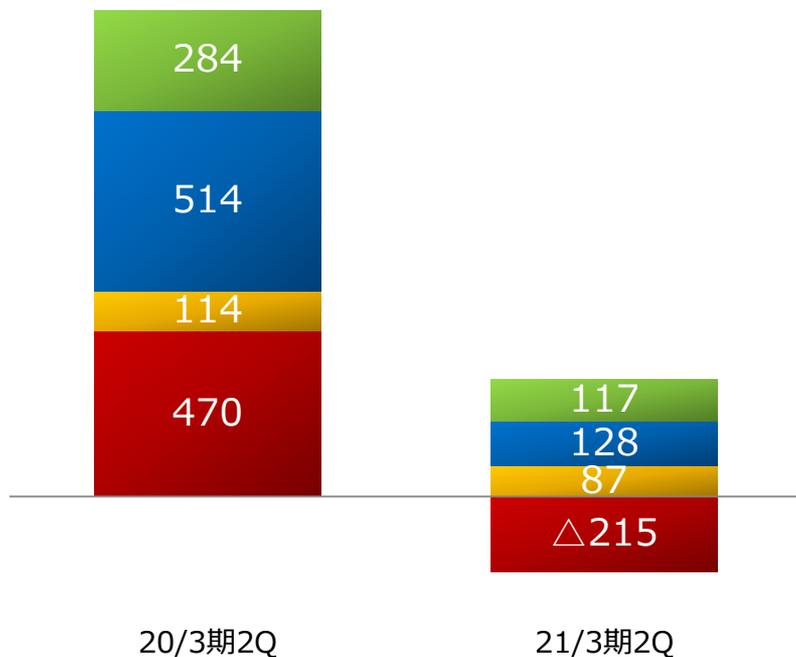


2021年3月期第2四半期 地域別営業利益

- 国内：売上高減少による固定費負担が影響し損失。
- 海外：新型コロナウイルス感染症の影響による減収の影響で、各セグメントで減益。
中でも、ブラジル、インドは回復が遅く損失。

セグメント別営業利益（百万円）

■ 日本 ■ 中国 ■ 南北アメリカ ■ 東南アジア/インド

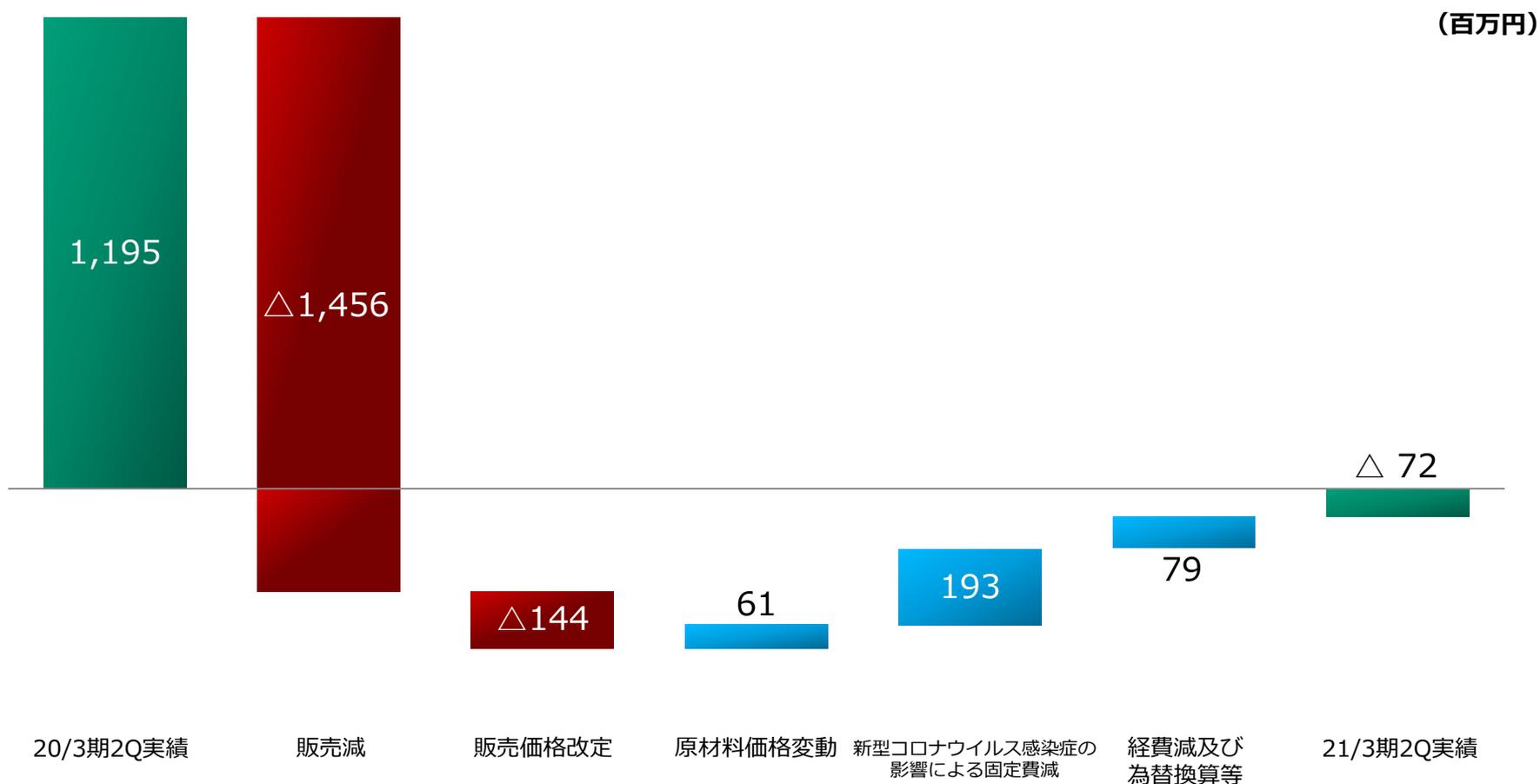


拠点別営業利益（百万円）

拠点	20/3期2Q	21/3期2Q	増減率	
日本	336	△358	—	
アメリカ	Yushiro America	214	43	△79.8%
	QualiChem	259	135	△47.7%
メキシコ	75	18	△75.2%	
ブラジル	20	△23	—	
中国	147	116	△20.8%	
タイ	170	89	△47.7%	
マレーシア	42	25	△40.5%	
インド	10	△7	—	
インドネシア	109	70	△35.7%	

2021年3月期第2四半期 連結営業利益の増減要因分析

- 固定費の減少や経費減少があったものの、新型コロナウイルス感染症の影響による販売減少で大きく減益。



2021年3月期 業績予想

Forecast



©2020 YUSHIRO CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.
All Rights Reserved.

業績予想の前提

- 新型コロナウイルス感染症の拡大は依然として予断を許さない状況ではあるが、世界各国で経済活動が再開されて来ており、徐々に回復していくと仮定。

	前提内容
日本	主要顧客である自動車関連業界ではメーカー毎で生産活動の回復に差はあるものの、通常の生産活動に向け回復傾向。
中国	4月以降、前年を上回る生産活動を維持しており、好調な生産活動が継続。
南北アメリカ	アメリカ・メキシコの顧客は、稼働率80~100%近くまで回復しているが、ブラジルの顧客の回復が遅れている。
東南アジア / インド	国毎の回復状況に差があるが、インドネシアを除き稼働率は概ね60~90%まで回復。新車の販売サービス税の減税対策を行っているマレーシアは6月には前年実績を上回るまで回復も、インドネシアでは回復が遅れている。

2021年3月期 連結業績予想

- 売上高：新型コロナウイルス感染症の影響は徐々に回復すると見込むも、前期比で減収。
- 各利益：営業利益は売上高の減少が影響し大きく減益。経常利益は持分法投資利益の減少もあり、各段階の利益が大幅に減益。

(百万円)

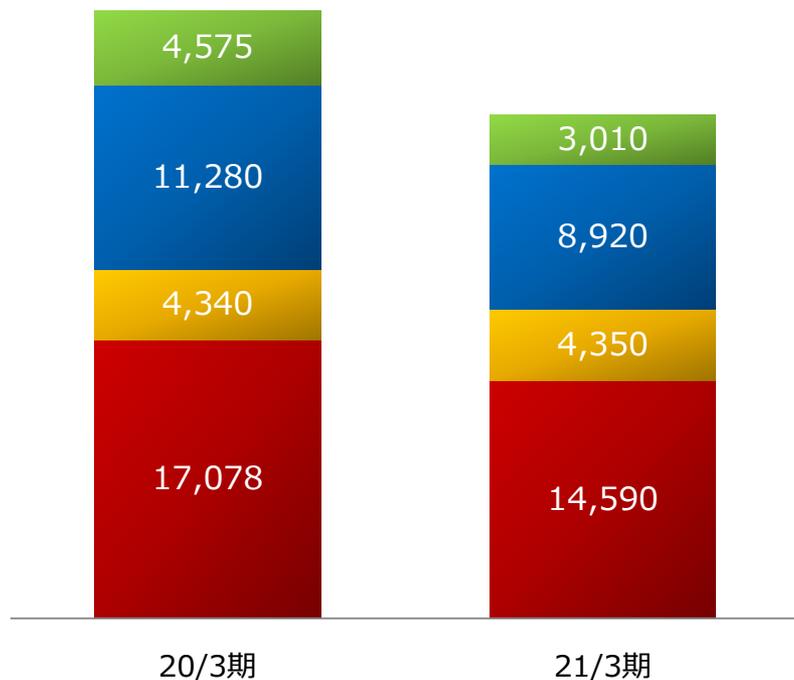
	20/3期実績	21/3期予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	37,274	30,870	△6,404	△17.2%
営業利益	2,213	280	△1,933	△87.4%
経常利益	2,718	500	△2,218	△81.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,913	130	△1,783	△93.2%

2021年3月期 地域別売上高予想

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、全拠点で減収。
- セグメント別では、比較的回復が早く前期並みと見込む中国を除き減収。

セグメント別売上高（百万円）

■ 日本 ■ 中国 ■ 南北アメリカ ■ 東南アジア/インド



拠点別売上高（百万円）

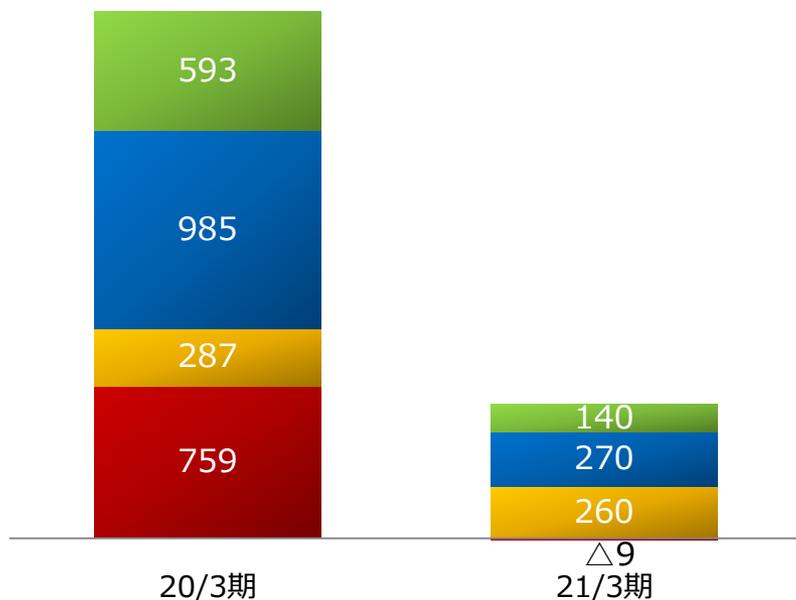
拠点	20/3期	21/3期	増減率	
日本	18,924	16,146	△14.7%	
アメリカ	Yushiro America	3,728	2,737	△26.6%
	QualiChem	5,695	4,973	△12.7%
メキシコ	1,150	849	△26.1%	
ブラジル	980	550	△43.8%	
中国	5,783	5,156	△10.8%	
タイ	2,031	1,333	△34.4%	
マレーシア	914	666	△27.1%	
インド	730	409	△44.0%	
インドネシア	1,180	742	△37.1%	

2021年3月期 地域別営業利益予想

- 新型コロナウイルス感染症の影響による減収で、全拠点で減益。
- 減収による影響で、日本セグメントは前年比760百万円超の減益。

セグメント別営業利益（百万円）

■ 日本 ■ 中国 ■ 南北アメリカ ■ 東南アジア/インド



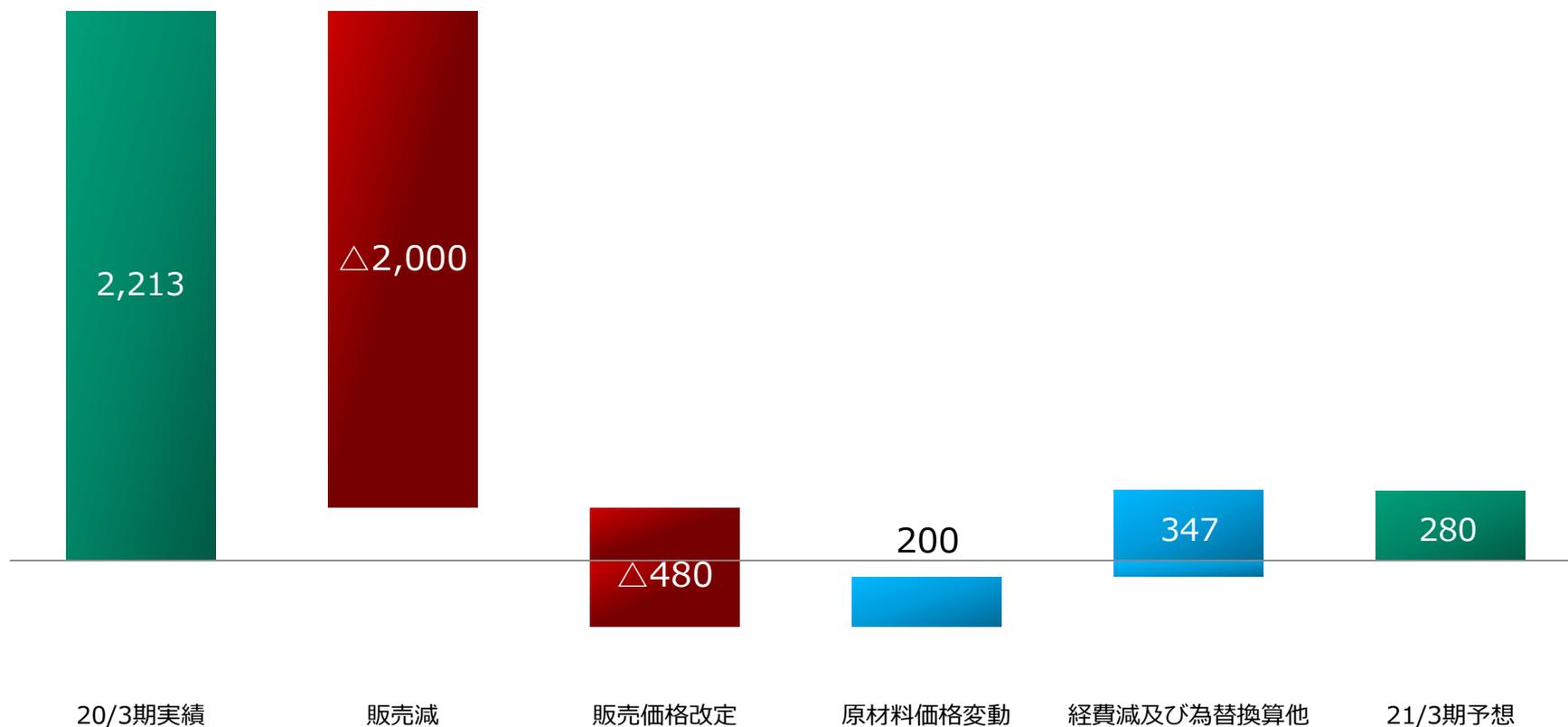
拠点別営業利益（百万円）

拠点	20/3期	21/3期	増減率
日本	476	△298	—
アメリカ	Yushiro America	108	△73.4%
	QualiChem	231	△51.8%
メキシコ	168	66	△60.2%
ブラジル	42	△39	—
中国	358	323	△9.7%
タイ	355	149	△57.8%
マレーシア	70	47	△33.6%
インド	25	△34	—
インドネシア	244	112	△54.0%

2021年3月期 連結営業利益に関する見通し

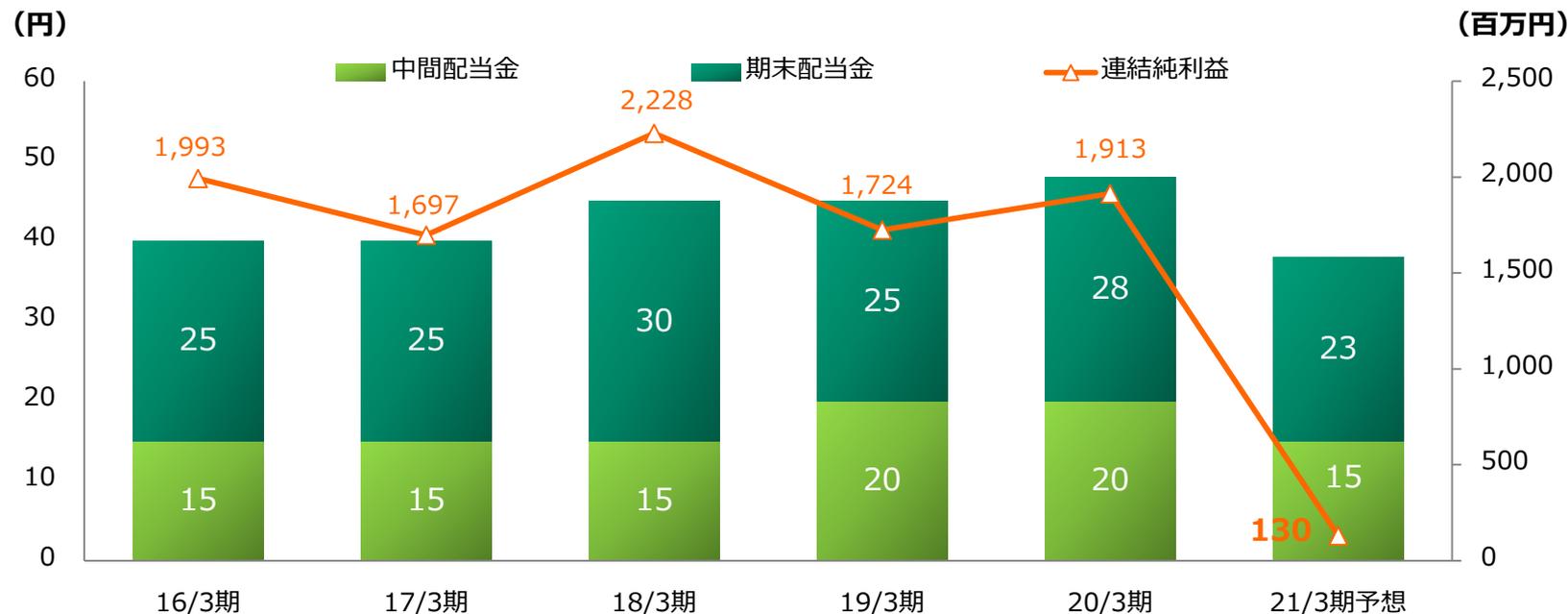
- 新型コロナウイルス感染症の影響による減収を、経費削減や原材料価格変動を抑制させることで、当期予想を見込む。

(百万円)



株主還元

- 配当方針 連結配当性向30%を一つの目安とし、投資とのバランスを考慮しながら安定的な配当を目指します。



配当性向 (連結)	27.8%	32.2%	27.4%	35.4%	34.1%	39.1%
-----------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

純資産配当率 (連結)	2.0%	2.0%	2.1%	2.0%	2.2%	1.7%
-------------	------	------	------	------	------	------

1株当たり配当金	40円	40円	45円	45円	48円	38円
----------	-----	-----	-----	-----	-----	-----



当資料取扱い上の注意

当資料に記されたユシノの現在の計画・見通し・戦略等のうち歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られたユシノの経営者の判断に基づいた、将来の業績に対する見通しであります。従いまして、これら業績の見通しのみにより全面的に依拠されることは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与え得るリスクや不確定な要素には、以下のものが含まれます。

- ①ユシノグループの事業環境を取り巻く世界情勢
- ②世界の原油価格動向
- ③米ドルを中心とした為替レートの変動
- ④偶発事象 等

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確定な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでユシノをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。